

1. 科目名 ( 単位数 )	日本語教授法I ( 2 単位 )	3. 科目番号	
2. 授業担当教員	牧野 圭二郎		
4. 授業形態	講義・演習・討論・発表	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	日本語教師としてどのような能力が必要なのか、理解した上で、日本語を教える際に用いられている教授法と理論について学ぶ。また、初級においてどのような教授法が用いられ、初級でどう教えていくかについて学んでいく。特に初級においては、学習者に理解してもらおうと、説明しがちになるが、説明は行わないことを理解する。初級では、さまざまな教授法を紹介し、その中で学習者自身が教授法を導き出せるように促していく。学習者の習得を促すために日本語教師は何をすればよいか考える。		
8. 学習目標	1. 日本語教師に必要な能力とは何かについて学ぶ。 2. どのような教授法が初級で用いられているのか理解できる。 3. 初級の四技能の習得を考慮した指導ができる。		
9. アサイメント ( 宿題 ) 及びレポート課題	1. 授業後にワークシートを完成させ、次の授業で確認する。( 4 点×10 回 ) 2. 期末レポート：授業で取り上げた初級文法の項目の中から一つ選び、教案を作成する。( 20 点 ) 3. 教案をクラスで発表する。( 10 点 ) ( 1 ~ 3 の点数は評定の方法の【 2 期末試験 ( レポート ) と 3 課題・発表】として評価する。 )		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】授業内でプリントを配布する。 【参考書】授業内で適宜紹介する。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 日本語教師の仕事について理解できたか。 2. 日本語教師として、現場での指導実践に役立てるような活動ができたか。 ○評定の方法 [授業への出席、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 1 授業への出席・受講態度 総合点の 30 % 2 期末試験 ( レポート ) 総合点の 30 % 3 課題・発表 総合点の 40 % なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。		
12. 受講生へのメッセージ	日本語教育の視点から日本語文法を学び、授業に応用できるように練習する。日本語を楽しく効果的に教える方法を学習者の身になって考えてほしい。		
13. オフィスアワー			
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション ( 学習の進め方、課題、評価方法 )	事前学習	シラバスを読み、講座の概要を理解する。
		事後学習	時間割に沿って学習計画を立てる。
第 2 回	仮名と発音の指導	事前学習	授業内容について調べておく。
		事後学習	ワークシートを完成させる。
第 3 回	日本語文法の基礎 ( 品詞、文型、活用 )	事前学習	授業内容について調べておく。
		事後学習	ワークシートを完成させる。
第 4 回	名詞文の導入と練習	事前学習	授業内容について調べておく。
		事後学習	ワークシートを完成させる。
第 5 回	形容詞の導入と練習	事前学習	授業内容について調べておく。
		事後学習	ワークシートを完成させる。
第 6 回	ます形の導入と練習	事前学習	授業内容について調べておく。
		事後学習	ワークシートを完成させる。
第 7 回	動詞のグループ分け、て形の導入と練習	事前学習	授業内容について調べておく。
		事後学習	ワークシートを完成させる。
第 8 回	ない形、辞書形、た形、普通形	事前学習	授業内容について調べておく。
		事後学習	ワークシートを完成させる。
第 9 回	意向形、命令形、可能動詞	事前学習	授業内容について調べておく。
		事後学習	ワークシートを完成させる。
第 10 回	受身動詞、使役動詞	事前学習	授業内容について調べておく。
		事後学習	ワークシートを完成させる。
第 11 回	使役受身動詞、敬語、課題の説明	事前学習	授業内容について調べておく。
		事後学習	ワークシートを完成させる。
第 12 回	教案の作成方法	事前学習	教案作成をする文法項目を決める。
		事後学習	教案を作成する。
第 13 回	教案発表 1、意見交換、講評	事前学習	教案発表の準備をする。
		事後学習	アドバイスを受けて教案を修正する。
第 14 回	教案発表 2、意見交換、講評	事前学習	教案発表の準備をする。
		事後学習	アドバイスを受けて教案を修正する。
第 15 回	教案の再提出、まとめ	事前学習	学習項目について、疑問点を整理する。
		事後学習	今学期を振り返り、今後の課題を見つける。

